

エゼキエル書38章2-4節 「鉤をかけ、引き回す主」

1A イスラエルを攻めるゴグ

2A 神の働きを攻める者たち

1B エジプトのパロ

2B カナンの地の王たち

3B ハルマゲドンの戦い

3A かかとを嚙まれ、頭を砕く方

1B 暗闇の力の破滅

2B 聖霊の力

1C 迫害下に生きる者たちへの約束

2C 周囲への証し

3C 本人たちへの証し

本文

エゼキエル書 38 章を開いてください、私たちの聖書通読の学びは 37 章まで来ました。午後礼拝で 38-39 章を読みます。今朝は、38 章 3-4 節を中心にお話していきたいと思います。「2 人の子よ。メシエクとトバルの大首長であるマゴグの地のゴグに顔を向け、彼に預言して、3 言え。神である主はこう仰せられる。メシエクとトバルの大首長であるゴグよ。今、わたしは、あなたに立ち向かう。4 わたしはあなたを引き回し、あなたのおごに鉤をかけ、あなたと、あなたの全軍勢を出陣させる。それはみな武装した馬や騎兵、大盾と盾を持ち、みな剣を取る大集団だ。」

1A イスラエルを攻めるゴグ

私たちはこれまで、イスラエルが次第に回復していく、神の幻を読んで来ました。ユダヤ人が神に背き続けたために世界に散らされた彼らを、神は帰してくださる預言です。イスラエルの地が荒地となり、また町々が廃墟となっているところに、人々が戻ってきました。そして土地に木が植えられて、作物が育ち、実を結ばせます。町々も立てられます。それがエゼキエル書 36 章でした。そして 37 章には、戻ってきた人々が国民として立ち上がる幻を見ました。谷間の真ん中で干からびた骨のようになっていた状態から、神がそれを結び、筋を付けて、肉を生じさせ、人とさせました。それは、ただ彼らが土地に帰還しただけではなく、国民として、国として再建されるということです。

そしてその二つの幻ですが、どちらの章にも御霊が注がれて、彼らが霊的にも回復することが約束されていました。イスラエルの土地に戻り、国が建てられるだけでなく、それから神が御霊を注いで、彼らの心が清められて、そして主の命令に従うようになるという約束です。私たちは、これを間近で、現代にまで至る歴史の中で見えています。19 世紀終わりにユダヤ人の帰還が始まり、

1948年にイスラエルが建国されました。しかし、そこにいる人々の多くがイエス・キリストを信じていないどころか、神さえも信じていない世俗派の人たちです。これだけの奇跡を目にしているにもかかわらず、まだ自分たちの力や知恵を信じていて、神とキリストに救いを求めるまでには至っていないというのが現状です。ですから、御霊が注がれて彼らが霊的に復興するのは、まだ将来の話です。

主は、イスラエルの民に、また私たちに、何度となく、気づきを与えるように、ご自分の奇跡をお見せになります。イスラエルの土地に彼らが戻ることができたということによって、ご自分こそが主であり神であることを明らかにされました。1948年にイスラエルの国が建てられました。彼らは気づいていません。そして、1967年に六日戦争が起こりました。エジプトとヨルダンとシリアが一斉にイスラエルに攻めてきて、絶体絶命だったところが、たった六日間で電撃的勝利を収めました。その時にヨルダンに取られていたエルサレムを奪還しました。領土はその時に四倍になったのです。それでも彼らは気づいていません。むしろ、自分たちの軍がいかに強いのか、我々は強国なのだと思われ高慢になりました。そして1973年に、ヨム・キプール戦争が起こりました。これはエジプトとシリアが一斉に攻めてきたのですが、最終的には勝利したのですが、シナイ半島でかなりの打撃を受けました。そこで少し気づき始めた人々が出て来ました。自分たちがここにいるのは神によるのではないのか？というものです。しかし、まだまだです。そしてイエス様を信じるイスラエル人も以前に比べたら、かなり増えています。けれども、まだまだです。

そこで主は、38章と39章を用意されていると言ってもよいでしょう。マゴグの地のゴグが、他の多くの国々を引き連れて一気にイスラエルの地に攻めてきます。イスラエルは、国もでき、豊かに、平穏に暮らしています。しかし、そこにある資源や財産を奪い取りたいということで襲ってきます。しかし主が介入され、彼らを一気に滅ぼされます。かつての六日戦争とは比較にならない程の、絶体絶命の危機からの救いです。そのことによって、主は世界の人々にご自分が聖なることを示す、イスラエル人にも示されようとします。そして御霊を注がれるのです。私たち一人一人にも、主はこのような働きをされます。主は、恵みをもって介入されます。そして、気づきを与えられます。そして御霊を与え、イエスこそが主であり、救い主であることを知ることができるようになります。

2A 神の働きを攻める者たち

この「**メシエクトバルの大首長であるマゴグの地のゴグ**」であります。午後礼拝でじっくり説明いたしますが、北の果てに在る国、具体的にはロシアの地に在る頭であります。ゴグが、ペルシヤであるイランや、トルコ、北アフリカに在る国々、また多くの国々を引き連れてイスラエルを攻めるのです。そのゴグを引き回しているのが、他でもない主ご自身であることが、4節に書いてあります。「**わたしはあなたを引き回し、あなたのおごに鉤をかけ、あなたと、あなたの全軍勢を出陣させる。**」とあります。これは、まるで海の大獣、猛獣で誰も御することのできない、モンスターの顎に鉤をかけて、それで引き回しているような姿です。自分がその略奪の心でイスラエルを攻めるのですが、実は神ご自身の思うままにされているということでもあります。

29 章には、バビロンによって滅ぼされるエジプトの最後の王ホフニについての預言で、こうありました。「29:3-5・・・あなたは、自分の川の中に横たわる大きなわにで、『川は私のもの。私がこれを造った。』と言っている。わたしはあなたのあごに鉤をかけ、あなたの川の魚をあなたのうろこにつけ、あなたと、あなたのうろこについている川のすべての魚とを川の中から引き上げる。あなたとあなたの川のすべての魚とを荒野に投げ捨てる。あなたは野原に倒れ、集められず、葬られることもない。わたしがあなたを地の獣と空の鳥のえじきとする・・・」エジプトのパロホフニは、自分がワニだとしてその力を誇っていましたが、主が彼のあごに鉤をかけ、そしてナイル川から引き上げ、そこで野垂れ死にさせるようにする。獣や鳥の餌食とすと言われました。

主は、ゴグに対しても同じようにされるといことです。イスラエルを攻め入るといのは、悪の勢力、サタンに突き動かされているものです。しかし、主は悪魔でさえご自分の手の中で動かし、彼をご自分の目的と栄光のゆえに使い、そして徹底的に滅ぼされるといことです。私たちはしばしば二元論に陥ってしまいます。神とサタンが同等であるかのように、悪の力が強くなっている時に、まるで神が対等な力で戦っているかのように考え、自分たちも戦おうとします。イエス様が捕えられる時に、ペテロが剣を出して僕の耳を切り落としたのに似ています。しかし、主は、「剣を取る者はみな剣で滅びます。(マタイ 26:52)」と言われました。いいえ、その暗闇の勢力でさえも、神のご計画の中にあり、神の意のままになっているのです。

1B エジプトのパロ

主はエゼキエルに、このゴグのような動きは、過去に預言者たちが語ったものではないか、と38章17節で言われています。確かに、イスラエルの歴史の始まりから、神の働きかけを見ることができます。イスラエル人がエジプトから脱出する時のことです。時のパロは、イスラエル人を労働力として使っていて、奴隷として苛酷に使役していました。そこで主は、わたしの民を出て行かせなさいとパロに言われましたが、彼は強情になって出て行かせませんでした。十の災いを下されました。最後の災い、エジプトの初子をすべて殺すという災いによって、彼はイスラエル人たちを追い出すようにして出て行かせたのです。しかし、彼はイスラエル人がいなくなったのを見て、なんともったいないことをしたのだと後悔します。多くの労働力を失ったとして後悔します。それで、彼は精鋭部隊を編成し、自らイスラエル人のところまで追いかけ、彼らを連れ帰そうとするのです。

そのパロの動きについて、主はすべてご自分が彼の心を頑なにして、そのようにさせていることをモーセに語っておられました。「出エジプト 14:1-4 イスラエル人に、引き返すように言え。そしてミグドルと海の間にあるピ・ハヒロテに面したバアル・ツェフォンの手前で宿営せよ。あなたがたは、それに向かって海辺に宿営しなければならない。パロはイスラエル人について、『彼らはあの地で迷っている。荒野は彼らを閉じ込めてしまった。』と言うであろう。わたしはパロの心をかたくなにし、彼が彼らのあとを追えば、パロとその全軍勢を通してわたしは栄光を現わし、エジプトはわたしが主であることを知るようになる。」イスラエルが海辺、しかも山と山の間の狭間のところに宿営する

ように命じ、そしてパロがそこに来るようにおびき寄せている神の言葉があります。案の定、イスラエル人がそこに宿営した時に、パロたちが追跡しました。イスラエル人は絶望に陥れられました。もう私たちは終わりだ、殺されると思ったのです。しかし主は、その海、紅海を二つに分けられました。そしてイスラエル人が海と海の間を歩くようにされました。そして、エジプトの軍隊がその中を通っている時に、海を元に戻されました。それで彼らは全滅するのです。向こう岸に到着しているイスラエル人はその一部始終を目撃しました。それで、これまでも主が彼らのために働き、救いの業を示していましたが、この紅海における神の救いの御業を見て、「14:31 民は主を恐れ、主とそのしもべモーセを信じた。」とあります。これと、ゴグのイスラエルへの侵攻における神の働きと、とても似ています。

2B カナンの地の王たち

そして、彼らが 40 年の荒野の旅を経て、ヨシュアによって約束の地に入りました。そしてエリコを攻略、次にアイの町も攻略しました。それで、その地にいる王たちが相集まって、一つになって戦おうとしたと書いてあります。「ヨシュア 9:1-2 さて、ヨルダン川のこちら側の山地、低地、およびレバノンの前の大海の全沿岸のヘテ人、エモリ人、カナン人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人の王たちはみな、これを聞き、相集まり、一つになってヨシュアおよびイスラエルと戦おうとした。」この後に、ヨシュアたちはことごとく、彼らを打ち砕きました。イスラエルが主の命令に従って、約束の地に入りましたが、それに対抗するために集まって来ました。けれども、それもまた主のご計画の中で織り込み済みであり、彼らを滅ぼすために神が敢えてイスラエルに一つになって対抗させた、とも言えるのです。

3B ハルマゲドンの戦い

そして将来、終わりの日には世界規模でこのことが起こることが、詩篇第二篇に預言されています。神とキリストに対して国々が相集まって、対抗します。しかし主は天からそれを見てあざ笑われます。そして彼らを滅ぼされるのです。「2:1-6 なぜ国々は騒ぎ立ち、国民はむなしくつぶやくのか。地の王たちは立ち構え、治める者たちは相ともに集まり、主と、主に油をそそがれた者にと逆らう。「さあ、彼らのかせを打ち砕き、彼らの綱を、解き捨てよう。」天の御座に着いておられる方は笑う。主はその者どもをあざけられる。ここに主は、怒りをもって彼らに告げ、燃える怒りで彼らを恐れおののかせる。「しかし、わたしは、わたしの王を立てた。わたしの聖なる山、シオンに。」そして黙示録 16 章において、その国々が集まるのはハルマゲドンと呼ばれる、イスラエルのメギドの丘であることが分かっています。「16:14,16 彼らはしるしを行なう悪霊どもの霊である。彼らは全世界の王たちのところに出て行く。万物の支配者である神の大いなる日の戦いに備えて、彼らを集めるためである。..こうして彼らは、ヘブル語でハルマゲドンと呼ばれる所に王たちを集めた。」そして 19 章において、再臨のイエス様が世界の軍隊をことごとく自分の口から出る剣で滅ぼされる幻が出て来ます。彼らは神とキリストにつまずき、これを無くそうとしますが、その反抗によってかえって彼らが滅ぼされてしまうのです。そして、主は世界に正義と平和をもたらされます。

3A かかとを嚙まれ、頭を砕く方

イエス様は、ご自身が捕えられる直前に、父なる神に祈られています。「ヨハネ 17:15 彼らをこの世から取り去ってくださるようというのではなく、悪い者から守ってくださるようお願いします。」私たちは悪いことが起こらないように、と祈りがちです。もちろん、神の憐れみによって試みから救われることを願うことは全く構いません。イエス様が、「我々を悪より救い出したまえ」と祈りなさい、と言われました。しかし、悪いことが来ることを恐れて、その不安と恐れから悪いことが起こらないようにするというのは、間違いです。むしろ、その不安と恐れの虜とされてしまうことでしょう。その悪いことは主がその通りになると前もって言われたことであれば、絶対に大丈夫です。なぜなら、そこから救い、また悪を滅ぼされるための前段階であるからです。悪さえも、神はそのサタン顎に鉤をかけておられるのです。ですから、ヤコブは私たちにこう勧めます。「神に従いなさい。そして悪魔に立ち向かいなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。(4:7)」

1B 暗闇の力の破滅

創世記 3 章 15 節には、初めてキリストが来ることを約束している言葉があります。「わたしは、おまえと女との間に、また、おまえの子孫と女の子孫との間に、敵意を置く。彼は、おまえの頭を踏み砕き、おまえは、彼のかかとかみつく。」女から生まれるキリストが、蛇すなわちサタンの頭を踏み砕き、そして蛇はキリストのかかとかみつくのです。キリストはサタンを踏みにじられます。しかし、その踏みにじるかかとかみつく、というのです。

イエス様が捕えられ、死刑宣告を受け、ローマに引き渡され、十字架に付けられるという過程は、すべて悪魔がその背後にいたからこそ、実現したものです。ヨハネは、最後の晩餐の時に、サタンがイスカリオテのユダに入ったと記録しています(ヨハネ 13:27)。そして捕える者たちがイエス様のところに来た時に、彼らに対して「今はあなたがたの時です。暗やみの力です。(ルカ 22:53)」と言われました。しかし、その十字架への道は全てが聖書に預言されていることでした。イエス様は、剣をさやに収めなさいとペテロに言われた後で、「マタイ 26:53-54 それとも、わたしが父にお願いして、十二軍団よりも多くの御使いを、今わたしの配下に置いていただくことができないとも思われるのですか。だが、そのようなことをすれば、こうならなければならないと書いてある聖書が、どうして実現されましょう。」と言われました。主は、それら捕えに来た者たちを滅ぼそうとすれば、一瞬にしてすることができます。しかし、聖書には、ご自身が死ななければいけないことが書かれているのです。父なる神のご計画に組み込まれていたのです。だから、あえて暗闇の力が働くままにされていたのです。

しかし、その試み自体が、彼らの力を完全に打ち砕き、無力化させるおびき寄せ作戦だったので、主は三日目に、墓から甦られました。全ての彼らがキリストを滅ぼそうとする試みは、徒労に終わりました。いや、徒労に終わっただけでなく、彼らは二度と、神のものとされた民に触れることのできない、徹底的な打撃を受けたのです。悪の勢力がイエス様を十字架に付けたその仕業は、

永遠の罪の赦しをもたらす神のご計画そのものであったのです！彼らはこれで、完全に武装解除させられ、捕虜となりました。「コロサイ 2:13-15 あなたがたは罪によって、また肉の割礼がなくて死んだ者であったのに、神は、そのようなあなたがたを、キリストとともに生かしてくださいました。それは、私たちのすべての罪を赦し、いろいろな定めのために私たちに不利な、いや、私たちを責め立てている債務証書を無効にされたからです。神はこの証書を取りのけ、十字架に釘づけにされました。神は、キリストにおいて、すべての支配と権威の武装を解除してさらしものとし、彼らを捕虜として凱旋の行列に加えられました。」

2B 聖霊の力

1C 迫害下に生きる者たちへの約束

ですから、私たちがイエス様を信じて、主に仕えれば、必ず四方八方から反対を受けます。巧妙にサタンが働いています。あたかも、自分は普通に、まともに生きているようにさせていますが、実はそうではないのに思わせている欺きがあります。しかし、イエス様を真面目に主とあがめて生きるのであれば、必ずその歩みを進ませない強い力が働きます。しかし、主がそのすべてを掌握しておられることを信じてください。あえて、そのことをさせて、皆さんを通してご自分の証しをするように導かれているのです。イエス様は、反対を受ける時に聖霊が語らせることを与えてくださると約束されております。「ルカ 12:11-12 また、人々があなたがたを、会堂や役人や権力者などのところに連れて行ったとき、何をどう弁明しようか、何を言おうかと心配するには及びません。言うべきことは、そのときに聖霊が教えてくださるからです。」自分に悪いことが起こったら、どうしようか。迫害を受けたらどうしようか、と心配するには及びません。聖霊がその時に助けてくださるのです。

イエス様を宣べ伝えていたので、ペテロとヨハネがサンヘドリンに連れて行かれ、そこで二度とイエスの名によって語ってはいけないと命じられました。けれども、彼らは「神に聞き従うより、あなたがたに聞き従うほうが、神の前に正しいかどうか、判断してください。(使徒 4:19)」と答えました。そして仲間の所に戻って行きました。彼らは祈りました。それは、このような迫害が来ないように、というものではありません。使徒 4 章 24 節から読んでみます。

24 これを聞いた人々はみな、心を一つにして、神に向かい、声を上げて言った。「主よ。あなたは天と地と海とその中のすべてのものを造られた方です。25 あなたは、聖霊によって、あなたのしもべであり私たちの先祖であるダビデの口を通して、こう言われました。『なぜ異邦人たちは騒ぎ立ち、もろもろの民はむなしいことを計るのか。:26 地の王たちは立ち上がり、指導者たちは、主とキリストに反抗して、一つに組んだ。』27 事実、ヘロデとポンテオ・ピラトは、異邦人やイスラエルの民といっしょに、あなたが油を注がれた、あなたの聖なるしもべイエスに逆らってこの都に集まり、28 あなたの御手とみこころによって、あらかじめお定めになったことを行ないました。

そうです、詩篇第二篇を彼らは引用しました。国々が相集まって神とキリストに反抗したところを取って、ヘロデとピラトが、イスラエル人と一緒にキリストを十字架につけるようにされたということです。つまり、「この迫害は、驚くものではなく、起こるべくして起こっているものだ。イエス様がそのことを受けられたのだから、イエスに従う私たちにも起こるのは当然だ。」ということです。

29 主よ。いま彼らの脅かしをご覧になり、あなたのしもべたちにみことばを大胆に語らせてください。30 御手を伸ばしていやしを行なわせ、あなたの聖なるしもべイエスの御名によって、しるしと不思議なわざを行なわせてください。」31 彼らがこう祈ると、その集まっていた場所が震い動き、一同は聖霊に満たされ、神のことばを大胆に語りだした。

いかがですか、聖霊に満たされています。聖霊の力が与えられました。そうです、彼らは悪から救われるように祈ったのではなく、悪の中でも御心を行なうことができるように祈ったのです。神の言われていることを信じて、受け入れ、それを行なおうとする時に主は聖霊を注いでくださいます。そして御心を行なうことができるようにしてくださいます。

2C 周囲への証し

ところで、エゼキエル書 38 章と 39 章において、主がゴグによるイスラエルへの攻撃から、イスラエルを救われることによって、38 章の最後の節ですが、「わたしがわたしの大いなることを示し、わたしの聖なることを示して、多くの国々の見ている前で、わたしを知らせるとき、彼らは、わたしが主であることを知ろう。」とされています。この出来事によって、世界の人々がイスラエルの神こそが、主こそが、比類なき方であることを知ります。

3C 本人たちへの証し

そして、ゴグに連なった数々の国の兵士の死体が転がっています。それをイスラエル人は一つ所に集めて火葬します。その後で、今度はイスラエル人自身が主なる神を知るとあります。「39:22 その日の後、イスラエルの家は、わたしが彼らの神、主であることを知ろう。」イスラエルは、大いなる救いの出来事によって、ようやくこの方が主であることを知るのです。彼らこそが主に選ばれた民なのですが、霊の目が閉じていて見えていなかったのです。しかし、紅海を渡って、エジプト軍を主が滅ぼされた時に主を恐れ、主を信じたのと同じように、彼らも主を信じるようになります。

世の中には、多くの悪い噂、ニュースがあります。何が起きているのかさっぱり分からないこと、心を不安にさせることがたくさんあります。けれども、忘れないでください、これらは全て「織り込み済み」なのです。主が確信犯的に行っておられることなのです。悪魔が最後のあがきとして、暴れ始めているだけなのです。私たちはそのことを知って、神に従うことを学びましょう。神の權威に従い、自分の知恵ではなく神により頼み、それで心と思いを平安で満たしていただきましょう。そして大胆に、神の御心を行なって、聖霊の力を与えられましょう。